

市民病院だより

『乳がん検診について』

マンモグラフィ撮影認定技師

友田 美代子

◆乳がん検診とは（国の指針）

- ・対象者 40歳以上
- ・受診間隔 2年に1回

◆検診内容

①問診

現在、日本では、女性の16人に1人が乳がんになっていきます。乳がんは、早期に発見すれば治療率が高いがんで、90%が治るといわれています。しかし、乳がんによる死者数は、残念ながら年々増加しています。

乳がん検診は、自覚症状の有無に関わらず、早期に発見することを目的にしています。

「どんなことをするの?」「恥ずかしい」「マンモグラフィ検査って痛そう」と、分からないことや不安なことが多いと思いますので、今回、乳がん検診の内容、マンモグラフィ検査についてお話しします。

斜め方向)

・50歳以上は1方向(斜め方向)を撮影します。

※検診の種類によって異なる場合があります。

◆検査の流れ

①着替え 上半身は裸になります。(病院によっては検査衣などが用意されています)

②検査方法などの説明を受けま

③撮影

まずは技師の手で、乳房を薄く均等に延ばしていきます。その後、圧迫板で挟んで撮影をします。挟んでいる間は、数秒から数十秒です。その検査を4回(年齢により2回)繰り返します。

圧迫板で挟むときに痛みを感じる方がいますが、我慢ができません。痛みが強いときは技師に伝えてください。

圧迫時の痛みは、乳房の大きさではなく、乳房の固さにあるようです。

そのため、乳房のハリがない月経開始から1週間から10日ご

ろに検査をされることをお勧めします。

マンモグラフィ検査は、痛みを伴う検査として敬遠されがちですが、医師の触診や自己検診では発見できないしこりや、石灰化のある小さな乳がんの発見に適しています。

また、検診による死亡減少効果がある、唯一の検査とされています。

なお、この検査はX線を使用していますが、マンモグラフィで浴びるX線の量は、1年間で知らず知らず浴びている自然放射線の、6分の1〜8分の1のため全く体には問題ありません。

この検査で、すべての乳がんを検出することができませんが、今の乳房の状態を知っておくことはとても大切なことです。

少なくとも一度は検査を受けましょう。



時間外受診をされる方へ

急病などでの時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問合せください。専門外の疾病の場合は、診察できませんのでご了承ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>